

# 令和3年度に向けて

福井県英語研究会副会長

塩谷 圭司

令和2年度は新型コロナウイルス感染症への対応で1年が過ぎ去ろうとしています。県内では落ち着いた状態ですが、全国的には第3波が訪れ収束が見られません。学校でも新しい生活様式の中、感染者を出さないよう常に気を張っている状態が続いています。英語の授業においても、これまで行ってきたコミュニケーション活動に制限が加わる中、様々な工夫をしながら授業に取り組まれたのではないのでしょうか。コロナのために県英研の講演会や研究大会も延期や中止となり残念です。今後もこの状態が継続すると予測される中、県英研として取組を進めていかなければなりません。中学校においては、令和3年度には3つの課題があります。新学習指導要領完全実施、東海北陸公立学校英語研究会福井大会の開催、働き方改革の推進です。会員の皆様と協力しながらこれらの課題に取り組んでいきたいと考えます。

## 新学習指導要領実施

小学校に続き来年度から中学校でも新学習指導要領が実施されます。この学習指導要領の大きな目標の一つは、社会に拓かれた教育課程の実現です。二つ目はグローバル化や人工知能AIの登場による予測困難な世の中で、子どもたちに生きる力を身につけさせることです。


英語に関しては、「外国語を通じて言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う」の目標については現行指導要領と基本的な考え方は変わっていませんが、評価については、これまでの4観点が「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点となりました。「指導と評価の一体化」がさらに求められ、「何のために学び、何ができるようになるのか」を明確にしていかなければならなくなりました。順次研修を実施したり、研究を深めたりしていきたいと思えます。

## 東海北陸公立学校英語研究会福井大会開催

今年度開催予定だった岐阜大会はコロナのため研究大会は実施されず紙上発表という形になりました。来年度の福井大会は感染状況を確認しながら実施していきたいと考えています。現在、福井地区、南越地区、二洲地区の3地区が、発表に向け研究を進めているところです。コロナの影響で実践が進まないこともあるかもしれませんが、地区として研究を進めてくださることを願っています。

7年に1度まわってくるこの大会ですが、通常2日間開催でした。しかし今回は先生方の負担軽減を考慮して1日開催とし、県中教研の発表と同時開催としています。また会の中で他県の先生方との交流も計画しています。

今大会の名称ですが、岐阜大会から「中学校」が削除され、「公立学校」と変更になっています。これは、小学校においても英語の授業が行われるようになったからです。他県のここ数



年の発表を見るに、小学校の先生方が発表したり、研究会にも多くの方が参加したりしています。残念ながら、来年度開催の福井大会では中学校のみの発表となりました。今後、中高だけでなく小中の連携がさらに求められていくと考えます。

### **働き方改革推進**

県の勤務時間条例が改正され、令和2年度から公立学校の教職員には、「県教育委員会規則」および各市町の学校管理規則等により、時間外勤務時間の上限について規定が設けられました。時間外在校時間の上限を原則月45時間以下、年間360時間以下などとし、県教育委員会は令和3年度末までに、時間外在校等時間月80時間以上の教員をゼロにするとの目標を掲げています。これまで先生方には、リスニングテストやリーディングテスト作成に勤務を終えてから多くの時間を割いていただきました。感謝するばかりです。今年度は会議の開始時間を以前より早くするようにしてきましたが、まだまだ不十分だと考えています。県英研は中教研とは違い、あくまで外部団体としての活動となります。問題作成は研修として先生方の力量向上につながっていることは間違いありませんが、いろいろ知恵を出しながら、県英研のこれまでの積み上げを生かしつつ、先生方の業務削減につなげていきたいです。

# 発刊に寄せて

福井県英語研究会副会長

竹本 俊穂

令和2年度は、中国武漢発の新型コロナウイルス感染症が世界的に蔓延し、アメリカをはじめ多くの国々で収束の目途がたたない事態となる中、日本においては感染防止対策として「3密」が提唱され、私たちの生活様式が大きな影響を受けた一年でありました。このような異常な状況にもかかわらず、昭和34年の創設以来積み重ねてきた60年有余年の歩みを止めることなく、本英語研究会の委員会活動やコンテストが万全な感染症対策(オンライン会議を含む)のもとで実施できましたことは、関係の先生方のご理解とご尽力の賜と深く感謝申し上げます。ありがとうございます。

ところで、今回の新型コロナウイルス感染症により、「10年先の時代がやってきた」とは言えないでしょうか。図らずも、オンライン会議用ソフト等の活用による遠隔授業やチャット機能を用いた質問対応のように、まだまだ先のこと(あるいは得意な先生だけが行うこと)と思われていたことを、すべての教員が実践する時代が、一足飛びに到来したのです。前例にとらわれずに果敢に挑戦することが必要な場面も多いのではないのでしょうか。

ご存じのとおり、本英語研究会は、昭和35年の放送によるリスニングテストの導入を皮切りに、令和3年1月から実施される大学入学共通テストでも求められる読み方(スキミングやスキヤニング)の研究、コミュニケーション(メッセージのやりとり)を重視したリーディングテストやリスニングテストの作成など、時代に先駆けた実践や研究を行って参りました。また新たに先駆的な優れた実践や研究が生まれ、日本をリードしてくれることを願ってやみません。

各高校においては、新学習指導要領の導入を見据え、コミュニケーション型の授業や教科横断型の授業などにおいて、タブレット端末等のICTを効果的に活用しつつ、いかに生徒の主體的・対話的で深い学びを実現するかについての実践や研究を進めておられることと思います。本英語研究会の皆さんが学校や校種の垣根を越えて、知恵を出し合い議論しあうことを通して、新しいアイデアが生まれ、本県の英語教育がいっそう魅力的に進化することを大いに期待しています。

最後になりますが、今後とも本英語研究会にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。